

## 空中遊泳した西麻布の仙人

今年の夏は、西麻布の仙人＝私、の空中遊泳から始まりました。

「現代の西麻布の住人も、西麻布の仙女たちの発する大きくて華やかな色気に迷って自転車操作を誤り、よく転げ墜ちます」と、7月号に書いたのですが、ホントに「ころげおちた」のです。

七月のはじめ、診察室の蛍光灯を交換しようと、ひとつの足場はベッド。もうひとつの足場には椅子を配置して、足場から足場に、ベッドから椅子に移るとき「移ったとき」と書けないのは「移れなかった」から。

たいした幅ではない、あたりまえに脚が届く距離の椅子にむかって脚をだす……そこから空中遊泳が始まった！！ 届いたつもりの脚は、空を踏んでいた、あれ一つ、ウッソー！！

美脚を見て、空から墜落した久米の仙人は、骨折しなかったのでしょうか？ 我ながらあまりの意外なできごとに、ポカンとしてしまった私には手を出して、身を護る余裕はなかった。遊泳のあと「落」ちるよりも、「墜」ちる、と書いた方がピッタリのドスン。当たったのは、胸が机の角、額がPCの本体。

うーっと呻く私。額の方、顔の打撲は幸い軽い。強打した胸は、息ができない……でもまあ大事には至らなかったことに感謝。

どうして？ どうして。これが老人の高所作業中の事故なのです。そうなんだ。自分では届いているつもりの所に、脚がとどいていない。こんなにアカラサマに自分の老いを見せつけられたのは初めて。

畑の梅。増えすぎた枝の剪定を今夏は予定していたが、こういった作業からは身を退くことに。あ～あ、できないことがまたひとつ増えて、残念なことだな～。

はじめは咳すると響いて、胸がいたむ、深呼吸もできない私でしたが、事故から二ヶ月ほど過ぎ、ほぼ全治。ヨガなどのボディワークにもひさしぶりに出始めました。

西麻布はリゾート？

今夏の暑さを見越してじゃないでしょうが、医院の二軒となりの、設計事務所？が、なにを勘違いしたのか「かき氷屋さん」をオープンしました。入って行って声をかけると、誰かが、誰でもよさそうです、図面を描いている手を休

めて、ゴム手をつけて、氷を出し、ガリガリとかいて、イチゴだの宇治金時など作ってくれます。宇治金時の450円は高い気がします、ここは西麻布のド真ん中だから許しましょう。なによりも、オフィス仕事にかき氷をまぜるといふ、発想に乾杯！！

ガラスでない、プラスチックの器・・・これはいただけない。もし来夏も開店するんだったら、ガラスの器にしてほしい。プラスチックで我慢して、匙をもらい、ドアのそとの駐車スペースに三つ並べてある、何て言うのかなプールサイドにあるような、これもプラスチックの椅子に腰かけて食べはじめる。

と風景が一変する。灼熱の太陽は一段落して、西日もここまでは届かない。路地の向こうの建物、たしか企画事務所か何かだったか、の横面の白壁が湘南のサーフショップをかねたこじやれた画廊のように見える。耳を澄ますと遠く潮騒が聞える。うっとり。実は首都高を通過する車の騒音なのだけれど・・・

〈影を慕いて〉

自転車通勤がすっかり身についた私ですが、今夏の暑さには参った。

医院まで自転車で来るならシャワー・着替えが必要。そんな設備はありませんから、四谷三丁目まで自転車できて、そこに置き、そこからはバスで、が定番になりました。

その四谷三丁目までもが汗だく。そうだ電動自転車にしよう。思い立ったらせっかちな私。自転車屋さんで、展示してある商品、おまけします、いま乗れます、とすぐ話がまとまる。じゃ今の自転車を家に置いてくるから、と家にもどり、こんどはタクシーでお店に戻る。そのときのこと。

信号で停車するとき、車がよろけるんですよ。はじめは??だったが二度目もそうだったので、運転手さん大丈夫? 熱中症で失神なんて、いやですよ～。

「いや、日陰をさがして停車してるんですよ。すこしでも涼しい方がお客さんもいいでしょう。“影を慕いて”ですよ」。

ホッとして、感心することしきり。すっかり気をよくした私。運転手さんとふたりで、「影を慕いて」の合唱。ま、若い人は知らないだろうが、昭和も一桁、ずいぶん昔の古賀メロディーです。リバイバルで、美空ひばり、森進一も唄いました。

それでは「胸がいたんだ酷暑の夏」の思い出に。

「♪つつめば燃ゆる 胸の火に、身は焦れつつ 忍び泣く・・・♪」

——以下次号——

## タイチーセンス 60

### 頂点を極めるパフォーマンス

先日ロンドンオリンピックが閉幕しました。開催期間中、応援で寝不足だったという人も多かったことでしょう。私も連日、興味深く観戦していましたが、全て録画して見ていましたので、寝不足にはなりません。

私の関心は日本の応援や誰がメダルを取るのかと言う事ではなく、各競技の頂点を極めるパフォーマンスそのものです。結果には興味ありませんし、動作をスロー再生などで何度も見たりするので必然的に録画鑑賞なのです。

今回は史上最多のメダル獲得数だったそうですが、金は少なかったようです。特に日本のお家芸の柔道で五輪史上初、男子金メダル無しという結果に選手も国民もがっかりしたことでしょう。しかしこの結果は本来日本の柔道界が望んでいたものなのです。

日本と言う小さな国の一武道が世界中に広まり、スポーツ競技の最高峰であるオリンピック種目になり発展し続けるのが悲願であったはずですが。

限られた国でしか行われていなければ普及していると言えませんし、発祥国だけが圧倒的に強く他国が優勝出来ないようでは、競技として成熟しているとはいえません。そのような理由でオリンピック種目になる事を望みながらも採用されない競技は沢山あります。

前回紹介した武術太極拳競技もこれに該当します。北京五輪での採用を目指していましたが採用されなかった。客観的に見れば当然なのです。

世界選手権には多くの国が参加していますが、実情は各国の華僑が多く、選手層も薄く本家中国との差が大きい為、まともに競技すれば全種目中国が優勝してしまいます。

競技普及の体裁を整えるため、中国選手が参加しない種目を作り、そこに均等に他国の優勝者を配分するという配慮が行われていますが、これでは真の国際競技とはいえません。中国選手不在で金を取っても世界一とは言えないので選手も喜べない筈です。

五輪でも金を取れる実力がありながら銀や銅だった選手に、メダルおめでとうございます、などとインタビューしている間抜けな様子が見られました。真剣にトップを目指している人間はメダルが取れば良いというものではないのです。

今回の柔道の結果は、世界に普及・定着・発展した証なのです。